

軽防協ニュース速報 号外

2009年3月5日
軽種馬防疫協議会 事務局
(JRA 馬事部防疫課)

インドの競馬場における馬インフルエンザの発生

2009年2月24日付で、インドの各競馬場における馬インフルエンザの発生状況の報告が、馬の国際間移動に関する委員会のインド代表メンバーである Dr. S. M. Karthikeyan からありましたので、以下に紹介します。

☆インドの競走馬群における馬インフルエンザの最近の発生に関する報告

1. 西インド (ロイヤル・ウエスタン・インディア・ターフクラブ)

競馬場における馬インフルエンザは2008年10月末にプネで報告された。本病の防止策として競馬場間における全ての競走馬の移動は直ちに止められた。11月末に始まるムンバイでの競馬シーズンは持ち越しとなり、2ヶ月間の休止後に全ての馬が回復したのを受けて1月31日から始まった。

2. 北インド (デリー・レーシング・ターフクラブ)

馬インフルエンザの発生は、デリー・レーシング・ターフクラブのきゅう舎では2008年10月の第3週に報告され、競馬が一時休止され、2008年12月31日までに再開された。

3. 東インド (ロイヤル・カルカッタ・ターフクラブ)

カルカッタの競走馬群における馬インフルエンザの発生は、11月第1週の始めに報告された。競馬場は閉鎖され、カルカッタ競馬場のきゅう舎内外における全ての馬の移動は止められた。競馬は2009年1月1日付で再開された。

4. 南インド (バンガロール・ターフクラブ、マドラス・レースクラブ、ハイデラバード・レースクラブ、マイソール・レースクラブ)

バンガロール、チェンナイ、ハイデラバード競馬場に在きゅうしている競走馬群では、インドの他の競馬場における馬インフルエンザの流行期間を通して本病の発生は報告されていない。これは主に馬の移動に関わるトータル的な禁止措置による防疫対策と、これらのターフクラブが各施設に在きゅうしていた全ての馬に対して実施した予防接種のお陰で

ある。不幸にもマイソール競馬場に在きゆうしていた馬は予防接種前に感染し、レースは中止された。2008年11月12日から2009年2月までの予定であったマイソール競馬場における冬季シーズンは、競馬シーズンを通して馬が感染したので取消しとなった。

5. ウイルスのタイプ

インドの馬の国立研究センターによれば、最近の発生に関わるウマインフルエンザウイルスはA2型ウイルス（H3N8）であると報告されている。

現在、南インド（マドラス・レースクラブ、バンガロール・ターフクラブ、ハイデラバード・レースクラブ）の全ての競走馬は、フォート・ダッチのフルバック・イノベーターという馬インフルエンザワクチンの接種を受けている。したがって、スタッドファームから競馬場に到着する全ての2歳馬についてもワクチンが接種されるであろう。ブネで2月第1週に通常開催されるオークションセールは、2009年3月18日に延期された。現在、如何なる競馬場においても馬インフルエンザの症例は認められず、マイソール競馬場を除く全ての競馬場では競馬を行っている。

（出典：S. M. Karthikeyan, Report on the recent outbreak of equine influenza among the racehorses in India, 2009. 2. 24, 鎌田正信, 2009. 3. 3）